看　　護

1　高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の方向性

ア　現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会答申では、職業学科における課題を次のように整理している。

・科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術の変化や高度化への対応
・専門的な知識・技術の定着
・多様な課題に対応できる課題解決能力の育成
・産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動のより一層の充実
・大学等との接続など、生徒の進路の多様化への対応

イ　課題を踏まえた教科「看護」の目標の在り方

このような中、産業教育全体の目標の考え方については、産業界で必要とされる資質・能力を見据えて、三つの柱に沿って次のように整理することができる。看護の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

①　看護について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
②　看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
③　職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的にかつ協働的に取り組む態度を育成する。

ウ　教科「看護」における「見方・考え方」

産業教育の特質に応じた「見方・考え方」については、教科ならではの物事を捉える視点や考え方であり、社会や産業に関する事象を、職業に関する各教科の本質に根ざした視点で捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの創造や質の向上等と関連付けることなどに整理することができる。看護科における「見方・考え方」は次のとおりである。

健康に関する事象を、当事者の考えや状況、疾患や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けること。

(2) 具体的な改善事項

看護では、少子高齢化の進行、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などを踏まえ、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人

を育成するため、次のような改善・充実を図る。

・多職種と連携・協働し、多様な生活の場にいる人々の看護について、専門性の高い実践力を養う学習の充実
・医療安全に関する学習の充実
・各領域における倫理的課題に関する学習の充実

2　資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

(1)　「主体的・対話的で深い学び」の実践例

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、協同学習に基づく LTD（話合い学習法）の意義とその有効性が再度評価されている。その目的は課題文の深い理解にあり、例えばジグソー学習法を実践する際にもこれまでに習得した話合いの基本的態度や技法を意識させる必要がある。

ここでは、「看護臨地実習」を展開する上で必要となる基礎的・基本的な知識・技術の学習である、科目「基礎看護」の単元「（３）診察と看護　ア　フィジカルアセスメント」を例に示した。この科目は看護を適切に行うための基礎的な能力を養う科目であり、科学的な知識の裏付けや最も的確な方法を自ら考え、創造工夫する能力の育成が求められていることから、学びの過程を重視した単元の指導計画の例を示す。

科目「基礎看護」　　単元「（３）診療と看護　ア　フィジカルアセスメント」

科　目　名	基礎看護　（２学年・５単位）			
単　元　名	（３）診療と看護　　ア　フィジカルアセスメント			
単元の目標	１フィジカルアセスメントに関する知識と技術が、看護にとって基盤となることの重要性を理解させる。 ２体温調節の仕組み、心臓と血管の働き、呼吸運動と呼吸の生理についての学習を基礎として、体温、脈拍、呼吸、血圧、意識レベルのバイタルサインを観察することの意義と重要性を理解させる。 ３観察の方法については、それぞれの測定の原理や、体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子、患者の諸条件及び器具の操作と手順について学習させ、正確に測定する技術を習得させる。その際、その測定結果の正常と異常を判断し、アセスメント能力を養い、適切に記録・報告が行うことができるよう指導する。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	・バイタルサインを観察することの意義と重要性に関心をもち、バイタルサインを正確に観察し、アセスメントし、適切に記録・報告を行うことに主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	・バイタルサインを観察することの意義と重要性、観察方法について科学的に思考を深め、基礎的な知識と技術を基に測定結果の正常と異常を判断し、アセスメントした考えを表現している。	・実験・実習などを通して、体温、脈拍、呼吸、血圧、意識レベルを安全かつ正確に観察する技術を身に付け、観察結果を適切に記録・報告している。	・フィジカルアセスメントに関する知識と技術が、看護にとって基盤となることの重要性を理解している。 ・体温、脈拍、呼吸、血圧、意識レベルを観察する意義と重要性について理解している。 ・それぞれの測定の原理や影響を与える因子などを理解し、正確に観察するための知識を身に付けている。

配当時間	学習内容	学習のねらい	評価規準と観点	A	B	C	D	授業形態	評価方法
【展開１】 ４時間	フィジカルアセスメントに必要な技術（視診、触診、聴診、打診）	主観的・客観的情報の両方を収集することや、診査の基盤となるコミュニケーションについて理解させる。	フィジカルアセスメントに関する知識と技術が看護にとって基盤となることの重要性や、それぞれの測定の原理や影響を与える因子などを理解し、正確に観察するための知識を身に付けることができる。	○			○	・講義	・ワークシートの記述内容
【展開２】 12 時間	バイタルサインの観察とアセスメント（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識）	バイタルサインを観察する意義について理解させるとともに、バイタルサインを正確に把握するための知識を身に付けさせる。	体温、脈拍、呼吸、血圧、意識レベルを観察する意義と重要性や、それぞれの測定の原理や影響を与える因子などを理解し、バイタルサインを正確に把握するための方法について考えを表現できる。		○		○	・講義	・ワークシートの記述内容 ・課題レポート（右片麻痺患者のバイタル測定の実施方法）
【展開３】 ６時間	バイタルサインの観察とアセスメント（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識）	バイタルサインを観察する意義について理解させるとともに、バイタルサインを正確に把握するための知識・技術を身に付けさせる。	バイタルサインを正確に観察し、正常・異常を判断し、適切に記録・報告を行うことに主体的に取り組むことができる。	○		○	○	・校内実習 ・グループワーク ↓ （傾聴とミラーリング）	・活動状況の観察
【展開４】 ２時間	実技テスト	器具の操作と手順について理解し、正確に測定することができる。	体温、脈拍、呼吸、血圧、意識レベルを安全かつ正確に観察する技術を身に付け、アセスメントし、観察結果を適切に記録・報告することができる。		○	○	○	・実習（試験）	・活動状況の観察

※評価の観点は、A（関心・意欲・態度）、B（思考・判断・表現）、C（技能）、D（知識・理解）

【LTD 話合い学習法：理想的な学習・対話法について】

LTD は学習教材である問題文を読み解くことを目的とした学習法である。話合いの技法として最初に教えるのが「傾聴」と「ミラーリング」である。傾聴とは、話者の話を聞き手が一心不乱に聴くことである。ミラーリングとは話者の話の内容を聞き手が復唱したり、聞き手が自分の言葉で再構成したりして話者に伝えることである。話者の話を傾聴してミラーリングし、その上で自分の意見を述べるのが話合いの基本パターンとなる。この基本パターンを常に意識しながら、協同学習の基本技法である「シンク・ペア・シェア」（TPS：Think=Pair=Share）や「ラウンドロビン」（RR：Round Robin）、さらには「特派員」をくり返し実践することにより、学生同士に基本的信頼感が醸成される。

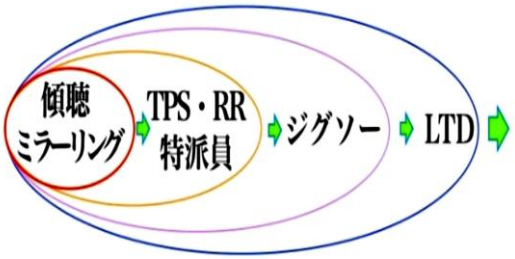


図1.「LTDを教える」授業における各種技法の体系的・重層的な活用法

(注意) TPS：シンク・ペア・シェア、RR：ラウンドロビン
LTD：LTD話し合い学習法

3　「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の改善

◆LTD 話合い学習法を利用した、科目「基礎看護」の単元「バイタル測定」の授業計画例

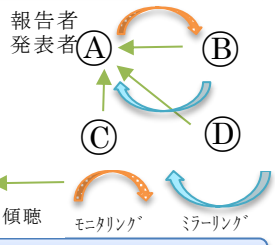
	次程	学習活動	指導上の留意点
【展開3】	第１次 (0.5ｈ)	・グループを作成する。 （生徒４人で１グループとし、10 グループ） ・グループ内で役割を分担する。★１	・学習方法について説明し、今後の学習のイメージ化を図る。 ・グループ編成は、生徒個々の個性を配慮して編成する。 ・次程の課題を提示し、各自学習内容をまとめる。
	第２次 (0.5ｈ) 主体的、対話的な学び	・グループ・ディスカッション ・学習内容をまとめる 傾聴とミラーリング	・各自がまとめた学習内容を持ち寄り、報告し、質疑や協議をさせ、手順のワークシートを完成させる。★２ 報告は一人ずつ同じ時間で行う。（傾聴） 報告を受けたメンバーは、自分が理解した報告内容に自己の意見も含め順に発表する。（モニタリング） 報告者はメンバーの話を聴く。（ミラーリング）
	第３次 (0.5h)	・ベッドに生徒を配置し、バイタルサイン測定を行う。	・グループ間を巡回しながら、手技について必要時手本を見せ、正しく測定できるよう関わる。 ・チェッカーの生徒は手順通りできているか確認する。
	第４次 (0.5h) 対話的な学び	・実施内容について各グループにワークシートを使用して振り返りを行う。★３ 傾聴とミラーリング	・はじめに看護師役が振り返り内容を発表し、その内容を受けて患者役とチェッカーが良かった点や改善点について発表する。 発表は一人ずつ同じ時間で行う。（傾聴） 発表を受けたメンバーは、自分が理解した発表内容に自己の意見も含め順に発表する。（モニタリング） 発表者はメンバーの話を聴く。（ミラーリング）
	第５次 (2h)	・グループで「右片麻痺患者のバイタルサイン測定の方法」をまとめ、課題発表会の準備をする	・巡回して学習活動を活発に促す。 ・質疑応答を踏まえ、再検討させる。 ・グループ内での役割を事前に決めさせる。 （説明係１人、PC・プロジェクター係１人、看護師役１人、患者役１人）
	第６次 (2h) 深い学び	・課題発表会 ・各グループで行ったバイタルサイン測定の方法を、パワーポイントを活用して説明や実演する。 ・他グループの説明や実技を見ての感想を述べる。	・各グループでまとめた内容を、説明と実技で発表させる。発表しないグループには感想を述べさせ、学びを共有化させる。 ・他のグループからの学びをワークシートにまとめ、知識・理解を深めさせる。

課題明示

個人思考

集団思考１

傾聴とミラーリングのイメージ



基本的信頼感の醸成

集団思考２

全体交流

★１　４人の生徒を看護師役、患者役、チェッカー２人に分ける。
★２　事前に各自が作成したレポートで学習内容を持ち寄り、グループで協力し合いワークシートをまとめる。バイタルサイン測定の方法について、手順や留意点と根拠をまとめる。また、相手の学習内容から特に参考になったことや気付いたことを記入させる。
★３　記載したワークシートを使用して振り返りを行い、場合によっては手順を再構成する。

第２次から第４次のワークシート記入例

グループで右片麻痺患者のバイタルサイン測定の方法について話合い、学習した内容をまとめてみよう。
グループメンバー　看護師役Ａ子・患者役Ｂ美・チェッカーＣ香・Ｄ男

手順	※根拠や留意点	実施中に気付いたこと
1　必要物品を準備する。（体温計・血圧計・聴診器・酒精綿・筆記用具） 2　患者のところへ行き、説明をする。 3　体温計を左腋窩に挟む。 4　体温計が鳴ったら、取り出し測定値を確認する。 5　左橈骨動脈を触知し、脈拍測定を行う。 6　橈骨動脈を触知している手を離すことなく、呼吸測定を行う。	第２次の記入 2　説明を行い、反応を確かめる。反応が明確でない場合には方法を変えて反応を確認し、意識レベルの観察をする。 3　麻痺側の右では測定	第４次の記入 3　体温計が鳴るまでの間、待っている時間が生じている。 4　脈拍測定をしている時間、沈黙の状態で測定しているが患者はどのような思いだろうか。

～　中　略　～

話し合いで特に参考になったこと	参考文献
第４次の記入 ひとつひとつの測定を順番に行うことで確実に実施できるが、時間がかかってしまった。 脈拍と呼吸の測定を一度に実施しているが、コミュニケーションを取りながら測定するためには、先に１分間コミュニケーションを取らずに呼吸を測定し、その後少しコミュニケーションを取りながら脈拍を測定した方が雰囲気が良くなると感じた。	①○○○:○○○○ ②○○○:○○○○